

令和4年度 田原市議会広報広聴委員会行政視察報告書

日 程 令和4年8月3日（水）～4日（木）

- 視察先 1 「議会だよりの編集について」「広報広聴活動について」
(埼玉県寄居町)
- 2 「オンラインでの意見交換会について」「高校生との対談について」
(埼玉県富士見市)

参加者 委員長 廣中 清介 副委員長 内藤 浩
委員 長神 隆士 委員 仲谷 政弘
" 中神 靖典 " 内藤喜久枝
" 岡本 重明
事務局 書記 正木さと子

- 1 「議会だよりの編集について」「広報広聴活動について」
(埼玉県寄居町)

令和4年8月3日（水）14:00～15:35

会 場 寄居町役場 全員協議会室（本庁舎3階）

対応者 寄居町議会 議長 津久井 康雄 氏

議会広報広聴特別委員会 委員長 鈴木 詠子 氏
副委員長 笠原 則夫 氏
委 員 田母神節子 氏
" 大澤 博 氏
" 保泉 周平 氏
" 権田 孝史 氏
事務局 書記 福地 泰士 氏
" 片見 亜希 氏

(1) 概 要

寄居町は、埼玉県の北西部、荒川が秩父山地から関東平野に流れ出すところに位置し、面積は64.25k㎡、令和4年4月1日現在の人口は約3万2,000人。全国名水百選などに認定される水環境や、国史跡「鉢型城跡」に代表される歴史環境など多くの恵まれた環境を有する一方、近年では彩の国資源循環工場や大手自動車メーカー四輪車生産工場が建設されるなど発展を続けてきている。

令和4年6月21日時点で市議会議員は15人。常任委員会は、総務経済（8人）、文教厚生（8人）の2委員会。他に議会運営委員会（6人）、第7次三ヶ山地域開発調査特別委

員会（9人）、議会広報広聴特別委員会（8人）、議会改革検討委員会（8人）、ホンダ支援委員会（全議員）がある。

寄居町議会だよりは、全国町村議会議長会主催の町村議会広報表彰（広報コンクール）において、平成29年度から令和2年度の4年間において最優秀賞（第1位）、令和3年度優秀賞（第2位）を受賞している。「読まれない議会だよりに出す意味なし！」を編集方針に掲げており、読みやすく新たな切り口で議会や審議内容を伝える特集企画などが特徴である。

（2）参考になった点

【議会だより】

- ・「読まれない議会だよりに出す意味なし！」という編集方針に沿っての構成はもとより、議員一人一人の取組や姿勢、広聴（取材）が重要である。
- ・町民参加を心がけ、議会と町民の視点を掲載している。町民への取材は腕章をつけて行い、議会だよりにより名前・顔写真・コメントを載せることで記事のリアリティと親近感を高めている。
- ・動きのある写真を多く活用し、見出しはインパクトのある表現、記事は読み手を第一に考えて簡素な表現にしている。
- ・QRコードを活用したホームページや30秒動画へのリンクなど様々なメディアを駆使し、記事を補完している。
- ・町広報紙と違う視点で、町民を審議過程へ引き込むことに注力している。
- ・議案に対する各議員の賛否を明らかにすることで、議会だよりを通して議会・議員の活動が町民に見えるようにしている。議会広報広聴特別委員だけでなく、議員全員で考える記事もある。
- ・ダブル表紙のアイデアや、絵コンテを作成して記事との連動性も考慮した表紙を検討するなど、毎回入念な編集作業が行われている。
- ・編集の企画段階から委託業者との打合せを行うことで斬新な紙面ができる。業者が計4回ある編集会議すべてに参加し、その場で原稿の手直し等を実施するため、編集スピードが速くなっている。

（3）所感

【議会だより】

- ・議会だよりを出す意義について、議論すべきであると思う。手に取って、記事を読んでもらうためには、どのように変えれば良いのか、検討する必要がある。広報誌作成にかける委員の熱意がないと、レベルの高い広報誌は出せない。
- ・議会を知ってもらうために議会だよりは大事であると改めて痛感した。参考になったことを田原市版としてアレンジしたいと思った。
- ・文字で伝えようとしてしまうため、写真を活用して誰もが読みやすい議会だよりにした。
- ・QRコードの活用により関連HPや資料映像へリンクし記事を補完することについて、特に表紙の写真と関連した資料や動画にリンクできると面白いと思った。

- ・「日本一短い議会報告」という各議員 30 秒の動画は、議員の声が聞けて良い。
- ・広報を通して議員の議案に対する対応がしっかり掲載されていることに最も刺激を受けた。なるべく多くの議員の意見を載せるようにしたい。
- ・全議員で考えるシリーズではテーマを決め、全議員の意見を 50 文字以内にまとめて掲載しており、面白いと思った。
- ・費用対効果を検討する必要があるが、委託業者に編集会議に参加してもらい、その場でデータの修正ができれば、編集効率は格段に上がると思うため挑戦してみたい。また、オンラインでの参加であれば業者側の負担も軽くなるかもしれない。
- ・委託業者が編集会議に入った方が見やすい議会だよりになると思うが、費用面で難しい。

【広報広聴活動】

- ・広聴活動をもっと活発にしたい。広報広聴の腕章があると、広聴活動もしやすくなると思った。



視察研修の様子



議場見学の様子

寄居町議会だより No.104



寄居町議会だより No.105



2 「オンラインでの意見交換会について」「高校生との対談について」

(埼玉県富士見市)

令和4年8月4日(木) 9:56~11:20

会 場 富士見市役所 第1委員会室(本庁舎1階)

対応者 富士見市議会 議長 斉藤 隆浩 氏

意見交換会実行委員会 委員長 佐野 正幸 氏

文教福祉常任委員会 委員長 川畑 勝弘 氏

市議会だより編集委員会 委員長 尾崎 孝好 氏

事務局 局長 近藤 徹 氏

主任 幕田 祐二 氏

〃 戸谷 薫 氏

(1) 概 要

富士見市は、埼玉県の南東部、首都30km圏に位置しており、令和4年4月10日に市政施行50周年を迎えた。面積は19.77km²で現在は大半が住宅地と畑作地帯となっており、令和3年10月1日現在の人口は約11万2,000人で、毎年増加傾向にある。

令和4年4月1日時点で市議会議員は21人。常任委員会は、総務(7人)、文教福祉(7人)、建設環境(7人)、予算決算(21人)の4委員会。他に議会運営委員会(5人)、庁舎整備に関する特別委員会、市議会だより編集委員会、災害時対応検討委員会、意見交換会実行委員会がある。

早稲田大学マニフェスト研究所による議会改革度調査2021ランキングの住民参加部門では、回答のあった1,355議会中、全国17位である。平成30年度と令和元年度に総務常任委員会が埼玉県富士見高等学校生徒会と意見交換会を実施し、令和2年度には意見交換会実行委員会が新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みてオンラインで実施。令和3年度は意見交換会を行わず、市議会だより編集委員会における対談を実施し、その様子を市議会だよりに掲載した。また、令和3年度には開催直前に新型コロナウイルス感染症が急拡大したため、文教福祉常任委員会がICT活用推進リーダーの教員とオンラインで意見交換会など多くの市民との意見交換を実施している。

(2) 参考になった点

【オンラインでの意見交換会】

- ・常任委員会ごとの研究テーマに沿った団体と意見交換会を行っていた。
- ・意見交換会が要望を聞く会になってしまうのは良くないと富士見市議会では認識されている。
- ・コロナ禍でオンラインによる報告会を取り入れたことで、市役所まで来られない団体ともできるようになった。
- ・オンラインでもカメラワークなどを駆使して行くと、子どもは盛り上がる。

【高校生との対談】

- ・議員が外に出て行き、直接意見を積極的に聞いている。

- ・高校生が発言しやすいように音楽をかけ雰囲気を和らげたこともあり、高校生との対談は生徒・先生の評価が良かった。また、市長へ提案書を提出するなど、政策形成サイクルも回っている。
- ・若い世代が多い町でもあり、高校生をターゲットにすると本人や保護者にも読まれるようになり、広報誌の役割が高まると思った。

(3) 所 感

【オンラインでの意見交換会】

- ・委員会ごとテーマに沿った団体と意見交換会を持つのは、効率的でいいと思う。
- ・要望になる広聴活動は、テーマを決めて行うといい対談となる。
- ・オンラインはリアルに会えない方とも対談できるが、本音を聞き出せる体制が必要であると感じた。
- ・市PTA連絡協議会など現場の声が聞ける取組を考えることが必要である。

【高校生との対談】

- ・高校生との意見交換会は、若者の政治参画意識を高めるために、また若者の目から見える市の課題を知るために、必要なものであると思う。しかし、学校側の理解がないと対談は難しい。
- ・高校生との意見交換会を開くに当たり、事前打合せで高校生と議員の間に先生が入ったことで、高校生としてはやりやすかったと思う。
- ・議員の年齢が若く、新しいことに挑戦しているように思えた。高校生議会・子ども議会・女性議会・若者議会など、本市も若い世代の声を聞く努力をしたい。
- ・テーマや話しやすい環境整備、場所など、事前に検討しておくべきことは、多々ある。議員が高校に出向き、高校生が慣れた場所で行うべきかと思う。



NO.189



令和3年第3回(9月)定例会

市議会だより

高校生のみなさんと議会が対談

実施日：令和3年8月5日(木)



●今頃、未来を担う若い世代の声を聞きたいという声と、富士見高等学校生徒会の皆さんに富士見市議会の開催をお願いしていた。当日は、日曜日を感じていることなどを交えて、和やかな雰囲気の中で様々な質問を聞かせていただきました。

△**学校や私生活において、コロナ禍で大変だったことなどは?**

●「大変だったこと」
●学校に行かず、授業も受けられず、新しいクラスの変更と会えなかった。
●何をしたらいいのかわからなかった。
●外出を控え、学校でも行事ができず、書知への修学旅行も行けなかった。
●恋が片側なのでコロナの感染には特に注意しなければならず、友人と遊ぶ時間も減らさなければならなかった。
●今の時期は特に暑いので、マスクをすずとしないといけないが大変。
●生徒会の活動では人数が多いので、一つの部屋に集まらず、先生からアプリでメッセージをもらって活動していた。
●「変わったことなど」
●家族との会話が増えた。
●自分を責めつめ直す時間が増え、進路のことなどを考えた。
●家にいることが増えて部屋など趣味に使う時間が増えた。
●料理を始めるきっかけになった。
●家にいる時間を使って、母に話をさせたいと思った。

△**どのような街に住んでみたい?**

●防災車がすぐに来るような災害に強い街。
●ショッピングモールなどの多い街。富士見市ももう少しあったほうが嬉しい。
●安全な街。自宅の周りは街灯が多く、不審者が怖い。
●こみかなくて空気がきれいなところがいい。
●バスなどの交通網を増やしてほしい。

△**将来に向けて、考えていることは?**

●養育の仕事、子どもにかかわる仕事、世界中の動物に接する仕事など、自分の目標に就くための準備をしている。
●勉強は好きではないが頑張りたい。
●就職するが勉強も大事にしたい。
●自分の周りを笑顔にできる仕事に就きたい。
●自分しか出来ないバ技けたスキルを磨きたい。
●海外という未知の場所に興味を持っている。



△**高校生からのメッセージ**

●大変な状況ではありますが、感染防止の意識を持ち是非外出を自粛してください。
●そして夜が静かになったが、家族との時間を大切に過ごしてください。
●コロナ禍でお仕事が大変だと思いますが、楽しく工夫しながら頑張ってください。
●学生は夢を持つことでやりたいことも増えるし世界も広がります。後悔がないよう頑張ってください。
●小さな事からでも行動に移すのが大事だと思います。悩んだときは我慢するだけではなく、一時的に逃げ遅れをくり返さないことも大切です。それには友人など、何でも話せる人が必要です。小さな発言や行動で相手を傷つけてしまうこともあります。少しでも相手に思いやる気持ちで、より優しくやさしい環境をつくるのだと思います。

「富士見市議会だより」題字について
今号の市議会だよりの題字は、富士見高等学校2年生で書道部の高野七七さんに書いていただきました。

- 参加してくれた生徒会のみなさん
- | | | | | |
|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1年生 | 山内(推) | 山口(推) | 山内(推) | 山口(推) |
| 2年生 | 副会長 山内(推) | 副会長 山内(推) | 副会長 山内(推) | 副会長 山内(推) |
| 3年生 | 生徒会長 長谷川(推) | 生徒会長 長谷川(推) | 生徒会長 長谷川(推) | 生徒会長 長谷川(推) |
| | 事務局長 千塚(推) | 事務局長 千塚(推) | 事務局長 千塚(推) | 事務局長 千塚(推) |

9月定例会トピックス

●9月定例会が8月31日(火)から9月24日(金)までの25日間に行われます。

●市議会議員の新型コロナウイルス感染症の発生したことに伴い、市政一般質問を取りやめ、会期を短縮しました。

●今定例会では、令和2年度富士見市一般行政収入歳出決算認定をはじめとする9件の決算認定議案や、令和3年度富士見市一般会計修正予算案等、第6号議案などについて審議し、いずれも議案のとおり可決・認定しました。



△**編集後記**

コロナ禍で制限の多い高校生活の中、上手に工夫して辛いことを価値あることに置き換えて生活している様子うかがえました。

また、対談を通して、皆さんにとっても強いやりがあること、自分の個性を活かして社会などの役に立ちたい、他の人を賞はせたいという気持ちが高いことを感じました。

心に残るメッセージもいただきました。

●この経験は、対談での発言をまとめたものです。発言内容は、趣旨が読み取れる範囲で一部要約してあります。

市議会議員の午賀状・暑中見舞状・祝金等寄附行為は、法律で禁止されており、登録の取消をお願います。